

タイ中央平原の農家経済に関するノート

—— 米の輸出動向に関連して ——

とも 友 すど 杉 たかし 孝

は し が き

現在のタイ米輸出の頭打ち状態が今後も続くと思えば、それが輸出米生産者である農家にいかなる影響を及ぼすか、またタイの農村がどう変容するかということは1つの興味ある問題である。本調査は対象地域を輸出米のほとんどを生産しているメナム川下流デルタ地帯を中核とするいわゆる中央平原に限定し、これと比較するために自給的色彩の強い東北部についてふれることとする。

19世紀後半以後の貿易自由化によって、タイの中央平原には輸出米の生産を主とする商業的農業が展開した。衣料品などの安価な外国品の輸入は、これまで農家で自給されていたものを衰退させた。このことは同時に農家における貨幣の果たす役割の増大を意味した。貨幣をうるために農家はもっとも現金を獲得しやすい商品、すなわち輸出品としての米にその生産をいよいよ集中していった(註1)。このように輸出米の生産—販売を軸として展開してきた中央平原の農家経済に米の国際市況、したがってタイ米輸出の動向がいかなる影響を与えるかはきわめて重要な問題である。しかしながらこれは非常に大きな問題なので、さしあたりつぎの2点について述べることにしたい。すなわち第1に、農家経済の自給度について、第2に、国際市況の変動は農家経済にいかなる影響を与えたかを、とくに1930年代を例としてとりあげてみることにする。つまり前者は、米価の変動が農家経済に及ぼす影響の程度に大きな関係をも

ち、後者はそのことについての過去の具体的な例を示すものである。

ところで本稿において使用した資料について簡単に述べておきたい。タイの農家経済に関する一般的な資料はきわめて乏しく、FAOの援助で行なわれた *Economic Farm Survey* (註2)、が戦後の資料としては唯一のものであるが、これもはなはだ不十分である(たとえば現物小作料、特別収入などで)。また地域的、個別的なモノグラフもきわめて乏しく、中央平原においていえば、バンチャンにおける調査報告(註3)しかない。したがってバンチャンの報告を中央平原全体の平均を示す *Farm Survey* のなかに正しく位置づけることはできない(註4)。今後多くの地域について調査報告が出されて初めて全体と各地域との関係を正しく把握することができるようになる。このようにこの調査は事実関係について多くの資料的制約を受けていることを一応ことわっておきたい。

戦前の資料としては、Zimmerman (註5)と Andrews (註6)の調査報告しか見当たらないので、これら2つの報告を比較しつつ米価変動の影響について検討することとする。

(註1) J. C. Ingram, *Economic Change in Thailand since 1850*, p. 36.

(註2) Division of Agricultural Economics, *Thailand Economic Farm Survey*, 1953. この調査は1952年4月より1953年3月までの期間を対象としている。また対象農家を、土地を2ライ以上所有しているかあるいは1000バート以上の農家収入をえているものに限定している。

(註3) Kamol Odd Janlekha, *A Study of the*

Economy of a Rice Growing Village in Central Thailand. パンチャンはバンコックから東北へ向って約20マイルの所にある。この調査はコーネル大学のprojectの一部で、1948～49年に最初の、52～54年に2回目の調査が行なわれた。

(注4) パンチャンの報告は非常にすぐれたものであるが、農家支出、収入、負債などについての有機的関連をもった捕え方が不十分である。このことは、本文で述べた事情に加えて、*Farm Survey* との比較を困難にしている。

(注5) C. C. Zimmerman, *Siam Rural Economic Survey*, 1930～31.

(注6) J. M. Andrews, *Siam 2nd Rural Economic Survey*, 1934～35. この調査はZimmermanの調査とともに、1953年の調査とは異なる地域区分を用いているが、このノートではこの相違は問題とならない。

I 農家経済における自給度と負債状況

1. 農家の構成

タイ中央平原の米作がいかなる農家によって行なわれているかを第1表によってみよう。この表は農家を経営面積の広狭により5つの階層に分けて、各階層に属する農家数の比率を求めたものである。タイの農耕技術はまだ粗放的な段階にあるので、中央平原のような水田単作地帯では概して経営面積の広狭が経営規模の大小を近似的に表わしていると思われる。中央平原と東北部を比較してみると、中央平原では6ライ未満(1ライは1反6畝)と60ライ以上の農家層すなわち零細農と大経営の農家との比率が大で、6～15、15～30、30～60ライに属する中経営の農家の比率は逆に少ない。さらに自作地の全耕地に対する比率は第2表で明らかなように、中央平原では70%を越えているものの東北部に比べて小である。これらのことは、東北部に比べて中央平原では農民層の分化が進んでいることを示唆している。しかし自作地の比率が70%を越えていることに注意すべきで(注7)、なぜ自作地の比率がこのように高いか今後十分に

調査すべき点である。

つぎに労働力の構成と配分を第3表、第4表、第5表からみると、(1)農家の家族数は5～7人であり、夫婦とその子供からなるとみられる小家族が圧倒的に多い。(2)農業従業者数は経営面積の広狭に比例している。(3)60ライ以上の大経営の農家を除き、各階層の農家とも自己の耕地を経営するに際して雇用労働に依存する割合は少なく、ほとんど家族労働によっている。(4)15～30ライ以上の中経営の農家では、その労働のほとんどを自己の経営する耕地に投入しているのに反し、6～15ライ以下の比較的零細な農家では他で働く時間がはるかに多い。(5)6ライ未満の零細農家が雇用労働を60ライ以上の農家について使用している。

以上のことから、中央平原の農家は、東北部に比較して農民層の分化は進んでいるが、大部分の農家は自己の所有地を持ち、それをほとんど家族労働だけで経営していることがわかる。そしてこのような中経営の農家の上層に、雇用労働にある程度依存する大経営の農家が位置し、下層に自己の耕地外の仕事に多くの労働を提供している零細な農家が位置している。注意すべきは6ライ未満の農家層であって、自作地の割合が35%できわめて低いにもかかわらず、60ライ以上の農家について雇用労働を使用していることである。これは6ライ未満の農家層が全く異なる2つのタイプの農家層よりなることを意味する。

2. 家計費

中央平原におけるこれら農家経済に、貨幣はどの程度の役割を果たしているのだろうか。まず經常家計支出——以下単に家計費という——に占める自家生産物の割合をみよう。第6表は東北部、中央平原の家計費を階層別に求めたものである。これによって明らかなことは、(1)東北部に比較し

て中央平原の自家生産部分の割合はるかに低い。(2)中央平原における購入部分は東北部に比べてはるかに大きい。(3)中央平原の零細農家とくに6ライ未満の農家の支出が比較的大きい。(4)中央平原における自家生産部分の占める割合は21~41%で、平均値は37%である(註8)。(5)家計費支出中大きな割合を占める購入部分の内訳は第7表の通りで食糧費が全体の50%を越え、衣料費が16%でこれについている。このような食糧費の高率は農家の低い生活水準を意味すると同時に、その生産が販売を目的としたものに集中していることを示唆している。このほかに特別支出、たとえば冠婚葬祭、宝飾装身具の購入、寺院への寄進、負債の返還、建造物の修理、土地購入などに要する現金支出を考慮に入れば、中央平原の農家は生産物の販売にいよいよ多くを依存しなければならない状況にある。

3. 農産物の商品化率

東北部と中央平原における農産物の商品化率を第8表でみるとまったく対照的である。すなわち東北部では商品化率は35%で、自給的色彩が強いのに反して中央平原では商品化率は61%にのぼりはるかに商品経済化していることがうかがわれる。中央平原の粳米の商品化率は第9表でみられるように平均57%であるが、農家層により粳米の商品化率にはかなりの相違がみられ、6~15ライ以下の農家では自給的であるのに対し、15~30ライ以上の農家層では粳米の商品化率は高い。米が自家消費的性格も同時にもっていることを考えれば、全農家の平均が57%、とくに60ライ以上の農家における70%の商品化率はかなり高いといえよう。さらに第8表で注意すべきは、中央平原の6ライ未満、6~15、15~30ライの各農家層の農業粗収入がほぼ等しいことである。この理由は第10

表の農業粗収入の内訳が示すように、(1)零細農家では豚、卵などによる副業収入が大きく、これが粳米の収入の低さを補っており、とくに6ライ未満の零細農家では畜産収入が粳米による収入を上回っている。(2)粳米による収入は経営面積に応じて増加している。(3)15~30ライ以上の中、大経営の農家では粳米による収入の割合は大きく、6~15ライ以下の農家と対照的である。零細農家の生産する豚、卵はバンコックなどの都市向けのもと思われるが(註9)、地理的関係などにより都市向けの生産を行なえない零細農家の農業粗収入は第10表の値よりずっと低いものとみられる。しかし15~30ライ以上の経営面積をもつ農家における粳米の高い商品化率、農業粗収入に占める粳米の高い比率は粳米の生産——販売が農業経済の基本になっていることを示している。

4. 農業外収入

ここでいう農業外収入とは、自己の経営する農地での収穫物による収入以外のすべての収入をさすのであるが、農業外収入が農家収入に占める比重は大きい。第11表より明らかなことは、(1)零細規模とくに6ライ未満の農家では農業外収入は大きい。(2)6ライ未満の農家の小作料による収入比率は60ライ以上の農家とともにもっとも大きい。(3)「副業労働および家内工業」の占める割合は非常に大きく、農業外収入の大部分がこのなかにはいる。とくに6ライ未満の零細農家のこの項目による収入は絶対額においても各農家層中最大である。以上の事実からつぎのような問題が出てこよう。まず6ライ未満の零細農家の小作料による収入が大きいことは、前に述べたようにこの階層が異なったタイプの農家よりなることを示している。さらに問題なのは、6ライ未満、6~15ライの零細農家では農業外収入が農業粗収入を上回っ

ていることである。このため農家粗収入（農業粗収入＋農業外収入）では、6 ライ未満の農家が30～60 ライの農家層のそれより多いという結果がでてくる。果たしてこのような大きな農業外収入を与えるほど自己の農地以外での仕事は現在のタイの農村にあるかどうかは疑問である。また農業外収入中はなほだしく大きな割合を占めている「副業労働および家内工業」の内訳は記載されていないので不明であるが、さしあたって考えられるものは賃労働者（農業を含む）、村の小売商、行商人、教師、職人などによる副収入である。賃労働による収入は、雇用の機会が少なくと賃金が安い^(注10)ことからあまり多いものとはみられない。小売商、行商などによる収入がどのくらいあるか不明であるが、教師の収入はある程度よいものである^(注11)。職人の仕事は各種あるが、バスケット、陶器、菓子、金具、大工、運送、床屋などがあり^(注12)、とくにバンコック近郊のノンタブリの陶器製作は盛んであった^(注13)。しかしこれらの職人の仕事から収入がどのくらいあるかもまた明らかでない。

最後に注意しておきたいことは、以上述べてきた数値がいずれも平均値であることである。平均値が必ずしもある階層の経済状態を正しく反映しているとはいえないことである。つまり平均値に近い農家は少なく、平均値から離れた値をとる農家が多い場合、あるいは異なったタイプの農家の経済状態が1つの値に平均されて示される場合は問題であろう。これまで述べてきたことからいうと、都市近郊の農家とそうでない農家、農業をむしろ副業とする農家、自作農と小作農などの質的な分類を全くしないで、単に経営面積だけから分類していることである。零細規模の農家の収入がかえって多いということも、このような平均の仕方によるところが多いのではなかろうか。

5. 農家負債

ここで視角を変えて商業的農業が展開している中央平原の農家負債についてみることにしよう。大多数の農家の低収入による現金不足は、信用制度の不備とあいまって農家負債の問題を発生せしめており、とくに水田単作地帯であることが問題をいっそう深刻にしている。第12表からみると、(1) 利率の低い協同組合あるいは政府から借り入れている農家の比率は小さい。(2) 多くの農家は年利20～30%の高い資金を借りている。(3) 親戚から借りている農家は全農家の約4分の1に及び、しかもその年利率は高い。(4) 地主、村内商店、籾米収買人、金貸業者からの借り入れもまた多い。(5) 商業銀行からの借り入れは全くない。以上の事実から、農村における信用制度がきわめて不備であり、その利率も高いことのほかに確実なことはいえず、とくにこのような負債がどのような農家で、どのような目的に使用されているか、あるいはその返済がどのように行なわれているかなどは明らかでない。これを補うものとしてさきに述べたバンチャンの調査報告^(注14)からこの村の農家実績を第13表により簡単に紹介しよう。本表による長期負債は1年から数年に及ぶもので、信用買は現金不足^(注15)のため信用で購買し収穫時に清算するものであるが、60%の農家が負債を有し、とくに信用買による負債は44%の農家が有している。負債額からみると逆に長期信用が81%を占め、信用買による負債は19%である。長期負債は主として土地、水牛の購入など農業資金に使われているが、その年利率は第14表で明らかのように、最頻値は24%である。また60%の年利率の長期負債もこれについて多く、これは信用買による負債が収穫時に清算されないで、長期負債になってしまったものである。信用買は籾米販売による収入がなくなって

しまう7～12月にとくによく行なわれる。大部分の農家は1～3月の間に負債の清算、家計支出のため販売用の粳米をほとんど売却してしまい、7～10月の高い粳米価格の期待できる期間に多くの粳米を売ることのできる農家は限られた富農だけである。信用買の利率は第15表で示されるように最頻値は50%ときわめて高率である。農家の現金不足によってこのような負債のほかにもいろいろな割り増しあるいは割り引きのかたちでの信用が行なわれている。たとえば Tog Khao (fall rice)、これは現金の乏しい時に借りた1 tang (20リットル)の粳米に対して、収穫時に2 tangの粳米を返す信用であり、また粳米代金の前払いにも使われ、その額は収穫時に支払われる額のわずかに4分の3ないし2分の1である(注16)。さらにこの報告によればこのような信用の不足と高い利子率は、資金を借り入れて生産に投資することを困難にするとともに、一方資金を持っている農家も生産に投資するより直接他の農家に貸した方がはるかに利潤がえられる状況を作っている。そしてこのような事情が大部分の農家と富農との格差を拡大せしめる一因をなしているものとみられる。

(注7) 自作地と小作地の割合は地域により非常に異なり、バンチャンでは自作地の全耕地に対する比率は47%である。このような相違が何によるのかは現在明らかでない。(K. O. Janlekha, *ibid.*, p. 57.)

(注8) バンチャンでは平均51%である。この相違は自家生産部分の評価と家計費の項目の取り方による。とくに自家生産物に対する評価の相違が大きい。自家生産物の評価を庭先価格とするか、小売価格とするかによりその評価額は大いに異なるだろう(*Ibid.*, p. 132, p. 142.)。

(注9) 都市向けの生産がどの程度あるのか疑問である。都市近郊には零細な農家が多いのであろうか、また現金収入のための都市向け生産を中経営以上の農家が比較的行なわないのはどうしてか問題である。華僑が零細農として大きな畜産収入をえていることも

ありうることだろう。

(注10) バンチャンではサンプル調査の結果、14人の賃労働者の年間賃金は250～1150バートであり、平均は857バートになる(*Ibid.*, p. 85.)。

(注11) Division of Agricultural Economics, *Thailand Economic Farm Survey*, 1953, p.31.

(注12) J. M. Andrews, *Siam 2nd Rural Economic Survey*, 1934～35, pp. 119～142.

(注13) *Ibid.*, pp. 130～131.

(注14) K. O. Janlekha, *ibid.*, pp. 156～161, pp. 176～177.

(注15) 粳米も交換手段として広く使われている(*Ibid.*, p. 165.)。

(注16) K. O. Janlekha, *ibid.*, p. 141.

II 景気変動による影響、とくに 1930年代を例として

以上述べてきたような農家経済にとって、米の輸出不振はいかなる影響を及ぼすであろうか。1930年代の不況を例としてみよう。

1930年代のタイ米輸出動向を第16表でみると、輸出数量の増大に反して価格は急落し、1929～30年を100とすれば、1933～34年には40に低落した。このような輸出価格の低落は、商業的農業を展開している中央平原の農家にいかなる影響を与えたかを簡単にみてみよう(注17)。

まずバンコックの粳米相場と農家庭先価格についてみると、第17・18表によれば、バンコック相場の急落はただちに農家庭先価格の急落を招いている。この関係を詳しく分析するにはさらに多くの時系列の統計が必要であるが、残念ながらその資料を欠いている。問題はタイ米の流通機構であり、中間商人と農民との経済的関係である。経済機構を図式的に示せば、農家→粳米収買人→輸送業者→精米業者(注18)となり、粳米収買人は農村のすみずみまではいり込んでいる。ここでは問題を簡単にするために、粳米が農家から流通機

構にはいる過程だけを扱う。この際農家と中間商人の経済的関係は要約すればつぎのようになるだろう。(1) 国内市場の未統一は中間商人に独占的な利潤を与える機会をつくる。(2) 個々の農家がそれぞれ商品化する粳米の量は局地的な限られた市場においてもきわめて少量であり、各農家は相場を左右する力を全くもっていない。(3) 収穫期に多数の農家が現金をうるために販売を争うことは、中間商人に有利な地位を与えている。(4) 農家はバンコクの相場に対する知識を全くもっていない。たとえば稗、ますの大きさが各農村ごとに異なっている^(注19)。(5) 農家の現金不足、信用度の不備は、中間商人からの前借りを余儀なくさせている。これらの諸関係は、農家に対する中間商人の経済的立場を強める結果となり^(注20)、したがって輸出価格の低落は商品経済化せる農家経済に転嫁される可能性を多くもっているのである。

このような流通機構のもとにおいて1930～31年と1934～35年の農家経済を比較してみよう。粳米による収入からみると、第19表で示されるように各地とも大幅な収入減があり、平均では129バートから78バートに低落している。この場合アユティアではかえって収入があがっているのが注目されるが、その事情は不明である。このような粳米の販売収入の減少は、販売価格による場合と、販売数量による場合、および両者の減少による場合が考えられるが、1930年代の輸出数量の倍近くの増大が、農家の販売量の増大を意味するとすれば、粳米の販売収入の減少は販売価格の低落によるものと推定できよう。さらに農家1人当たり米消費量が、1925/26～29/30年間の年平均2.5ピクルから1930/31～34/35年間の2.2ピクルに減少していることは^(注21)、農家が価格低落による収入減を補うために自家保有量を割ってまで販売したものと

考えられよう。さてこのような農業収入の減少が農家家計にいかに関与したかを第20表によってみると、中央平原、東北部ともに家計費が減少しているが、中央平原では東北部ほどには支出が減少していない。つまり商業的農業の展開している地域と自給的色彩の濃い地域との相違が明らかに示されている^(注22)。さらに農家負債について第21表よりみると、東北部ではかえって負債が減少しているのに対して、中央平原では1935年は30年に比較して5割近くふえている。サラブリ、タンヤブリでは土地の抵当流れも報告されている^(注23)。このようにして1930年代の国際米価の低落は輸出生産に依存する農家負債を増加させ、土地の抵当流れの問題を深刻にした。

その後の国際米価の変動が農家経済にいかなる影響を与えたか。この点に関しては戦前のように2時点の比較をなしうるような資料がまだ存在しない。ただ先に引用したバンチャンの報告はつぎのように述べている^(注24)。「1950～52年の間米の輸出価格は堅実に上昇したが、バンチャンでの粳米価格はトン当たり900～1000バートに保たれていた。しかし1953年に輸出価格の低落が始まると、まだその価格は1951年よりずっと高かったにもかかわらず、バンチャンの粳米価格は600バートに急落した。」

このことは戦前と同じく、戦後も米の輸出動向の影響が、中間商人を介して農家により大きく伝わることを示唆しているが、同時に好況はあまり農家に利潤を与えないことをも示している。したがってこのような中間商人の経済的機能を明らかにすることが、中央平原の農家経済を分析するために欠くことのできないものであり、これが明らかにされて初めて、タイの米輸出と農家経済の関係がより明白にされるであろう。

(注17) もちろん1930年代の事例をそのまま現在にあてはめようとするのではない。

(注18) C. C. Zimmerman, *ibid.*, p. 175.

(注19) C. C. Zimmerman, *ibid.*, pp. 178~9.

(注20) 財政顧問のドルは、1937年に輸出米価格の50%が流通過程で取得されると述べている。J. C. Ingram, *Economic Change in Thailand since 1850*,

p. 72.

(注21) J. C. Ingram, *ibid.*, p. 53.

(注22) J. M. Andrews, *ibid.*, p. 193.

(注23) J. M. Andrews, *ibid.*, p. 305.

(注24) K. O. Janlekha, *ibid.*, p. 174.

(調査研究部)

第1表 地方別・経営規模別農家比率

(単位：パーセント)

| 項 目 | 6ライ未満 | 6~15 | 15~30 | 30~60 | 60以上 | 全戸数 (¹⁰) |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------------|
| 中央平原 | 14.62 | 19.92 | 27.13 | 26.24 | 12.29 | 640,239 |
| 東 北 部 | 10.02 | 25.36 | 32.77 | 22.18 | 9.67 | 815,810 |

(注) 1ライは1反6畝に相当。

(出所) *Thailand Economic Farm Survey*, 1953, Table No. 2.

第2表 地方別・経営規模別自作地の割合

(単位：パーセント)

| 項 目 | 6ライ未満 | 6~15 | 15~30 | 30~60 | 60以上 | 平均 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 中央平原 | 35.05 | 78.05 | 70.47 | 75.70 | 76.81 | 74.35 |
| 東 北 部 | 95.24 | 97.78 | 98.10 | 98.13 | 98.60 | 98.17 |

(出所) *Ibid.*, Table No. 22.

第3表 中央平原における規模別農家当たり
家族数および農業従業者数

(単位：人)

| 項 目 | 6ライ未満 | 6~15 | 15~30 | 30~60 | 60以上 | 平均 |
|---------|-------|------|-------|-------|------|------|
| 家 族 数 | 4.94 | 5.34 | 5.70 | 6.24 | 7.41 | 5.92 |
| 従 業 者 数 | 2.16 | 2.78 | 3.10 | 3.49 | 4.35 | 3.21 |

(出所) *Ibid.*, Table No. 15.

第4表 中央平原における経営規模別労働力構成比
(単位：労働日、かっこ内パーセント)

| 項 目 | 6ライ未満 | 6~15 | 15~30 | 30~60 | 60以上 | 平均 |
|------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 家族労働 | 211 (90) | 285 (98) | 366 (96) | 530 (92) | 627 (78) | 391 (90) |
| 雇用労働 | 24 (10) | 7 (2) | 16 (4) | 48 (8) | 175 (22) | 44 (10) |
| 計 | 235 (100) | 292 (100) | 382 (100) | 579 (100) | 801 (100) | 434 (100) |

(出所) *Ibid.*, Table No. 16, No. 18.

第5表 中央平原における経営規模別家族労働構成比
(単位：労働日、かっこ内パーセント)

| 項 目 | 6ライ未満 | 6~15 | 15~30 | 30~60 | 60以上 | 平均 |
|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 農業労働 | 211 (56) | 285 (69) | 366 (83) | 530 (88) | 627 (86) | 391 (80) |
| その他労働 | 164 (44) | 128 (31) | 75 (17) | 73 (12) | 106 (14) | 98 (20) |
| 計 | 375 (100) | 413 (100) | 441 (100) | 603 (100) | 733 (100) | 489 (100) |

(出所) *Ibid.*, Table No. 16, No. 17.

第6表 地方別・階層別家計費

(単位：パート、かっこ内パーセント)

| 項 目 | 6ライ未満 | 6~15 | 15~30 | 30~60 | 60以上 | 平均 |
|-------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 購入部分 | 3,423 (79) | 2,815 (67) | 2,639 (59) | 3,083 (59) | 4,445 (63) | 3,102 (63) |
| 自家生産分 | 883 (21) | 1,389 (33) | 1,815 (41) | 2,107 (41) | 2,663 (37) | 1,823 (37) |
| 計 | 4,306 (100) | 4,204 (100) | 4,454 (100) | 5,190 (100) | 7,108 (100) | 4,925 (100) |
| 購入部分 | 1,435 (57) | 993 (39) | 1,240 (41) | 1,424 (42) | 2,068 (46) | 1,306 (42) |
| 自家生産分 | 1,072 (43) | 1,534 (61) | 1,750 (59) | 1,932 (58) | 2,461 (54) | 1,780 (58) |
| 計 | 2,507 (100) | 2,527 (100) | 2,990 (100) | 3,356 (100) | 4,529 (100) | 3,086 (100) |

(注) (1)購入部分の内訳は食糧費、外食費、衣料費、家庭用品、教育費、医療費、娯楽費などである。(2)自家生産部分の内訳は獣肉、鳥肉、卵、魚、狩猟、燃料、穀米、野菜、果実などである。

(出所) *Ibid.*, Table No. 12, No. 92, No. 93, No. 94, No. 95, No. 96, No. 97, No. 99.

第7表 中央平原階層別経常家計費(購入部分)

(単位：パート、かっこ内パーセント)

| 項 目 | 6ライ未満 | 6~15 | 15~30 | 30~60 | 60以上 | 平均 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|
| 食糧費 | 1,973 | 1,592 | 1,464 | 1,540 | 2,236 | 1,654(53) |
| 外食費 | 416 | 254 | 215 | 291 | 397 | 289(9) |
| 衣料費 | 442 | 411 | 441 | 553 | 727 | 503(16) |
| 家庭用品 | 162 | 160 | 152 | 202 | 328 | 191(6) |
| 教育費 | 148 | 95 | 78 | 167 | 203 | 131(4) |
| 医療費 | 188 | 213 | 208 | 220 | 317 | 224(7) |
| 娯楽費 | 93 | 90 | 80 | 106 | 237 | 110(4) |
| 計 | 3,423 | 2,815 | 2,639 | 3,083 | 4,445 | 3,102(100) |

(出所) *Ibid.*, Table No. 92~7, No. 99.

調 査

第8表 地方別・階層別農産物商品化率

(単位: パート, かつこ内パーセント)

| 項 目 | 6 ライ未満 | 6~15 | 15~30 | 30~60 | 60以上 | 平均 |
|--------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 中央平原 | | | | | | |
| 販売部分 | 2,037 (70) | 2,030 (59) | 2,039 (53) | 3,277 (61) | 6,036 (69) | 2,883 (61) |
| 自家消費部分 | 883 (30) | 1,389 (41) | 1,815 (47) | 2,107 (39) | 2,663 (31) | 1,828 (39) |
| 計 | 2,920 (100) | 3,419 (100) | 3,854 (100) | 5,384 (100) | 8,699 (100) | 4,716 (100) |
| 東 北 部 | | | | | | |
| 販売部分 | 531 (33) | 496 (24) | 793 (31) | 1,246 (39) | 2,241 (48) | 954 (35) |
| 自家消費部分 | 1,072 (67) | 1,534 (76) | 1,750 (69) | 1,932 (61) | 2,461 (52) | 1,780 (65) |
| 計 | 1,603 (100) | 2,030 (100) | 2,543 (100) | 3,178 (100) | 4,702 (100) | 2,734 (100) |

(出所) Ibid., Table No. 4, No. 12.

第9表 中央平原における穀米の商品化率

(単位: パート, かつこ内パーセント)

| 項 目 | 6 ライ未満 | 6~15 | 15~30 | 30~60 | 60以上 | 平均 |
|--------|--------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 販売部分 | 286 (38) | 418 (33) | 998 (44) | 2,173 (60) | 4,546 (70) | 1,592 (57) |
| 自家消費部分 | 462 (62) | 834 (67) | 1,260 (56) | 1,417 (40) | 1,894 (30) | 1,219 (43) |
| 計 | 748 (100) | 1,252 (100) | 2,258 (100) | 3,590 (100) | 6,440 (100) | 2,811 (100) |

(出所) Ibid., Table No. 73, No. 106.

第10表 中央平原の項目別・規模別農業粗収入

(単位: パート, かつこ内パーセント)

| 項 目 | 6 ライ未満 | 6~15 | 15~30 | 30~60 | 60以上 | 平均 |
|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 水 牛・牛 | 105 (5) | 175 (9) | 162 (8) | 163 (5) | 360 (6) | 183 (6) |
| 豚 | 554 (27) | 490 (24) | 189 (9) | 232 (7) | 161 (3) | 295 (10) |
| 鶏 | 40 (2) | 76 (4) | 36 (2) | 29 (1) | 29 (0) | 41 (1) |
| あひるおよび家禽卵 | 32 (2) | 8 (0) | 7 (0) | 7 (0) | 364 (6) | 52 (2) |
| その他畜産物産小計 | 336 (16) | 60 (3) | 36 (2) | 53 (2) | 109 (2) | 84 (3) |
| 穀 米 | 286 (14) | 418 (21) | 998 (49) | 2,173 (69) | 4,546 (75) | 1,592 (55) |
| 穀米以外の作物 | 266 (13) | 448 (22) | 228 (11) | 269 (8) | 195 (3) | 284 (10) |
| 果樹その他の樹木 | 416 (20) | 354 (17) | 378 (19) | 345 (11) | 266 (4) | 354 (12) |
| 耕 種 計 | 968 (47) | 1,220 (60) | 1,604 (79) | 2,787 (85) | 5,007 (83) | 2,230 (77) |
| 総 計 | 2,035 (100) | 2,030 (100) | 2,039 (100) | 3,277 (100) | 6,036 (100) | 2,888 (100) |

(注) (1)百分率は四捨五入してあるから, 必ずしも各項目の百分率の合計は100にならない。(2)農業粗収入は農産物の販売による収入をさす。

(出所) Ibid., Table No. 66, No. 68~75.

第11表 中央平原の項目別・規模別農業外収入

(単位: パート, かつこ内パーセント)

| 項 目 | 6 ライ未満 | 6~15 | 15~30 | 30~60 | 60以上 | 平均 |
|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 貸地小作料 | 291 (8) | 107 (5) | 107 (8) | 127 (9) | 291 (16) | 153 (9) |
| 魚および狩猟 | 53 (2) | 73 (4) | 104 (8) | 44 (3) | 46 (3) | 53 (3) |
| 伐 木 | 44 (1) | 43 (2) | 67 (5) | 42 (3) | 133 (7) | 60 (3) |
| 副業労働および家内労働 | 2,872 (83) | 1,676 (82) | 914 (66) | 1,071 (73) | 1,102 (62) | 1,330 (74) |
| その他 (貸付金利を含む) | 198 (6) | 145 (7) | 186 (13) | 185 (13) | 210 (12) | 181 (10) |
| 計 | 3,458 (100) | 2,044 (100) | 1,378 (100) | 1,468 (100) | 1,782 (100) | 1,791 (100) |

(出所) Ibid., Table No. 76~80.

第12表 中央平原の借り入れ先別農家負債

| 借り入れ先 | 借り入れ農家比率(%) | 借り入れ金額(パート) | 利 率(%) |
|---------|-------------|-------------|--------|
| 協同組合 | 6.05 | 1,529 | 9.25 |
| 政 府 | 0.14 | 585 | 0 |
| 地主 | 1.40 | 1,112 | 35.79 |
| 親 戚 | 24.87 | 1,686 | 19.46 |
| 村内商店 | 7.60 | 1,460 | 21.52 |
| もみ収買人 | 2.18 | 2,905 | 20.62 |
| 金 貸 業 | 10.01 | 2,206 | 32.52 |
| 商 業 銀 行 | 0 | — | — |
| そ の 他 | 0.82 | 1,621 | 22.76 |

(出所) Ibid., Table No. 47.

第13表 バンチャンにおける農家負債

(単位: パート, かつこ内パーセント)

| 分 類 | 農家数 | 負 債 額 | | |
|--------------|---------|-------------|------------|--------------|
| | | 長期負債 | 信用買 | 計 |
| 負 債 額 | 37(38) | — | — | — |
| 長 期 負 債 | 15(16) | 90,600 | — | 90,600 |
| 信用買による負債 | 23(24) | — | 23,870 | 23,870 |
| 長期負債と信用買返事なし | 19(20) | 65,850 | 13,850 | 79,700 |
| 返 事 無 し | 2(2) | — | — | — |
| 計 | 96(100) | 156,450(81) | 37,720(19) | 194,170(100) |

(出所) K. O. Janlekha, A Study of the Economy of a Rice Growing Village in Central Thailand, p. 156.

第14表 長期負債の年利子率

(単位: パート)

| 年利子率 | 農家数 | 負債額 | 年利子率 | 農家数 | 負債額 |
|------|-----|--------|------|-----|---------|
| 0 | 1 | 700 | 30 | 1 | 3,000 |
| 12 | 6 | 4,666 | 60 | 9 | 19,550 |
| 15 | 2 | 5,667 | 返事なし | 2 | 22,000 |
| 18 | 1 | 1,600 | | | |
| 24 | 15 | 82,267 | 計 | 37 | 156,450 |

(注) 1農家が異なる利子率の負債をもっている場合, 利子率によって分けた。したがって34戸より多くなっている。

(出所) Ibid., p. 161.

第15表 信用買による利子率(季節)
(単位: パート)

| 利子率(季節) | 農家数 | 負債額 |
|---------|-----|--------|
| 0 | 4 | 1,100 |
| 15 | 1 | 3,000 |
| 50 | 37 | 33,320 |
| 67 | 1 | 300 |
| 計 | 43 | 37,720 |

(注) (1)季節とは12月の収穫期までをさす。たとえば7月に借りた場合、12月までで1季節の利子が取られる。(2)異なる利子率の信用買をしている農家が1戸あるから、農家数は43戸になる。
(出所) *Ibid.*, p. 160.

第16表 1929/30~1938/39年の米輸出単価、輸出数量の推移

| 年次 | 1ピクル当たり 単価 (パート) | 指数 | 数量 (1000ピクル) |
|---------|---------------------|-------|-----------------|
| 1929~30 | 7.37 | 100.0 | 18,860 |
| 1930~31 | 6.02 | 81.6 | 17,112 |
| 1931~32 | 3.49 | 47.3 | 22,200 |
| 1932~33 | 3.38 | 44.0 | 27,867 |
| 1933~34 | 2.99 | 40.5 | 27,725 |
| 1934~35 | 2.92 | 39.6 | 33,701 |
| 1935~36 | 3.63 | 49.2 | 25,030 |
| 1936~37 | 3.69 | 50.0 | 25,978 |
| 1937~38 | 4.10 | 55.6 | 18,370 |
| 1938~39 | 3.76 | 51.0 | 25,914 |

(注) 1929~30は1929年4月より1930年3月まで。

(出所) *Thai Statistical Year Book*, No. 20, pp. 148~9.

第17表 バンコック市場と農家庭先価格(Koa Na Suan)

(単位: クイアン当たりパート)

| 地域 | 年 月 | 1929年 | | | | | | | | | | 1930年 | | | | | | | | | |
|------------------|-----|-------|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | | 5月 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 5月 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 5月 | 6 | 7 | 8 |
| バンコック | | 88 | 97 | 97 | 102 | 114 | 102 | 92 | 98 | 90 | 90 | 85 | 86 | 83 | 65 | 56 | 52 | 90 | 90 | 85 | 86 |
| クラカノン(バンコック) | | 73 | 81 | 81 | 89 | 89 | 84 | 81 | 78 | 71 | 76 | 81 | 81 | 73 | 53 | 42 | 40 | 71 | 76 | 81 | 81 |
| バンヤン(サラブリー) | | 68 | 68 | 76 | 81 | 89 | 85 | 81 | — | 71 | 73 | 81 | 73 | 56 | 52 | 48 | — | 71 | 73 | 81 | 73 |
| トンチャイ(ペチャラブリ) | | 65 | 71 | 74 | 80 | 85 | 81 | 85 | 75 | 63 | 70 | 75 | 75 | 70 | 55 | 50 | 40 | 63 | 70 | 75 | 75 |
| チョークラチャー(チャスンサオ) | | 66 | 74 | 82 | 90 | 99 | 93 | 83 | 79 | 63 | 69 | 73 | 87 | 54 | 54 | 48 | 44 | 63 | 69 | 73 | 87 |

(注) カッコ内の都市名は、前記の村がその近郊であることを示す。

(出所) C. C. Zimmerman, *Siam Rural Economic Survey*, 1930~31, pp. 186~7.

第18表 バンコック市場と農家庭先価格(ordinary broadcasted rice)

(単位: クイアン当たりパート)

| 地域 | 年 月 | 1929年 | | | | | | | | | | 1930年 | | | | | | | | | |
|-----------------|-----|-------|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | | 5月 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 5月 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 5月 | 6 | 7 | 8 |
| バンコック | | 80 | 90 | 89 | 95 | 106 | 92 | 84 | 93 | 79 | 79 | 77 | 76 | 74 | 49 | 46 | 49 | 79 | 79 | 77 | 76 |
| ハントラ(アユティア) | | — | — | — | 79 | 81 | 86 | 77 | 72 | — | — | — | 68 | 63 | 63 | 45 | 43 | — | — | — | 68 |
| タローン(ロップブリー) | | — | — | — | 64 | 64 | 58 | 58 | — | — | — | — | 58 | 58 | 55 | 41 | 36 | — | — | — | 58 |
| タートン(ピサヌローク) | | 50 | 52 | 52 | 50 | 51 | 53 | 40 | — | 59 | 59 | 59 | 55 | 42 | 37 | 33 | — | 59 | 59 | 59 | 55 |
| ピハンダワン(スパーンブリー) | | — | 75 | 75 | 80 | 85 | 84 | 74 | 83 | — | 72 | 74 | 72 | 74 | 60 | 54 | 54 | — | 72 | 74 | 72 |

(出所) *Ibid.*, pp. 186~7.

第19表 1農家当たり籾米売上げによる
平均収入

(単位: パート)

| 地域 | 1930~31年 (A) | 1934~35年 (B) | B/A (%) |
|----------|-----------------|-----------------|------------|
| バンコック | 113.45 | 36.41 | 32 |
| アユティア | 176.34 | 192.61 | 109 |
| タンヤブリー | 269.61 | 169.69 | 63 |
| ロップブリー | 191.17 | 85.84 | 45 |
| サラブリー | 154.05 | 61.29 | 40 |
| ピサヌローク | 95.98 | 34.52 | 36 |
| スパーンブリー | 236.51 | 84.60 | 36 |
| チャスンサオ | 99.29 | 60.49 | 61 |
| ペチャラブリ | 115.58 | 80.32 | 69 |
| 中央部全体の平均 | 128.92 | 78.21 | 61 |

(出所) J. M. Andrews, *Siam 2nd Rural Economic Survey*, 1930~31, p. 58.

C. C. Zimmerman, *Siam Rural Economic Survey*, 1934~35, p. 61.

第20表 1929~33年の1戸当たり家計費の推移

(単位: パート)

| 地域 | 食 費 | | | 衣 料 費 | | | 家庭用品 | | |
|-------|--------------|--------------|------------|--------------|--------------|------------|--------------|--------------|------------|
| | 1929年 (A) | 1933年 (B) | B/A (%) | 1929年 (A) | 1933年 (B) | B/A (%) | 1929年 (A) | 1933年 (B) | B/A (%) |
| 東 北 部 | 29.35 | 8.72 | 30 | 7.21 | 3.73 | 52 | 8.49 | 3.33 | 39 |
| 中 央 部 | 62.73 | 49.80 | 79 | 20.29 | 12.65 | 62 | 25.24 | 10.18 | 40 |

(出所) J. M. Andrews, *ibid.*, pp. 194~8.

第21表 1930~34年の1戸当たり負債の推移

| 年 次 | 東 北 部 | | 中 央 部 | |
|-------|-------|-----|--------|-----|
| | 負債額 | 指数 | 負債額 | 指数 |
| 1930年 | 12.11 | 100 | 163.24 | 100 |
| 1931 | 14.20 | 117 | 190.36 | 117 |
| 1933 | 5.96 | 49 | 231.45 | 142 |
| 1934 | 6.77 | 56 | 233.85 | 143 |

(出所) *Ibid.*, p. 300.